



大学の貢献

観光庁産学連携による観光産業の中核人材・強化事業「SDGsによる山口県のスポーツ観光講座」

2020年度、2021年度の2年間、経済学部西尾建准教授が全体コーディネーターを務め、観光庁産学連携による観光産業の中核人材・強化事業「SDGsによる山口県のスポーツ観光講座」を開講しました。

講座は、「山口県の自然資源やスポーツ資源をいかし地域に幸せをもたらす新たな価値を創造する」ことを目的に、①国内や海外のスポーツ観光の成功事例を紹介しレビューする、②SDGsの視点から山口県内の自然資源、スポーツ資源を再考する、③アイデアを実現するための異業種間でのネットワークを構築する、という3つの指針のもと、実施しました。

学内では農学部、理学部、医学部、技術経営研究科、学外では山口県産業技術センター、山口県観光連盟、山口観光スポーツ文化部、一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構、公益財団法人日本交通公社と連携し、多くの機関の協力を得て実施することができました。

新型コロナウイルス感染症が拡大し、移動制限もあったことから、山口県内のスポーツ観光関係者を中心に受講生を募集しましたが、人的ネットワーク構築も重視し、宿泊、航空、鉄道、金融をはじめ建設、食品などの関連企業、旅行会社、自治体、観光コンベンション、DMO、スポーツインストラクターなど幅広く募集しました。広島県、大阪府、東京都からも応募があり、全講座受講できる本受講生と一部の講座のみ受講する準受講生に分けて登録し、受講しました。

2020年度は8回、2021年度は6回の講座、追加講座とスピノフ企画を実施しました。座学では、スポーツ観光、山口県の観光市場、ビジネスプランの作成、SDGsや国内外のスポーツ観光の事例紹介などについて講義しました。山口県内のスポーツ観光資源をより深く理解してもらうために、山口大学吉田キャンパスだけでなく、長門市、萩市、周防大島町、美祢市などを講座会場としました。ワークショップで取り組んだ「山口県のスポーツ観光プロジェクト」作成では、グループで10件と個人で49件の魅力的なプロジェクトが提出されました。



講座の最終回となる2021年11月25日には、山口大学吉田キャンパスにおいて、シンポジウム『ニューノーマル時代の山口県のスポーツ観光』を開催し、本講座受講生、学生、一般の方など100名以上が参加しました。観光庁の田淵エルガ参事官からは、「ニューノーマル時代の地方観光」と題して、ウィズコロナでの観光行政と地方観光のトレンドについての講演がありました。パネルディスカッション「ニューノーマル時代のスポーツ観光（西尾建准教授司会）」では、日本航空前山口支店長の小林信也氏から長門門津具マラソンをはじめとする山口県内でのスポーツ観光の取組、山口観光連盟の上田英夫専務理事からは山口県が支援するスポーツ観光アウトドアプロダクトなどが紹介され、アフターコロナでのスポーツ観光の可能性について議論がありました。

おもしろプロジェクト

「山口県鉄道観光MAP」完成 ～山口を元気にし隊～

2021年度採択プロジェクト「リアル桃鉄YAMAGUCHI」（山口を元気にし隊）は、青春18きっぷを使ってサイコロの目の数だけ駅をすすめるリアルすごろくゲームを開催しました。降りた駅での待ち時間を利用し、山口県内の魅力ある風景の写真を投稿しながら進みました。ゲーム中に得たポイントに写真の人気投票のポイントを加えて最優秀チームを決定するというユニークな企画で、学内外から「おもしろい！」の声が多く聞かれました。ゲーム終了後、参加者から投稿された写真を使って「山口県鉄道観光MAP」を作成しました。是非、完成したMAPを参考にお出かけしてみてください。



リアルすごろくゲーム 新山口駅内の本部の様子



完成した「山口県鉄道観光MAP」